

平成30年8月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年7月6日

上場会社名 株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス
 コード番号 2927 URL <http://www.ams-life.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅山雄彦
 問合せ先責任者 (役職名) 社長室長 (氏名) 土屋昭弘

TEL 054-281-5238

四半期報告書提出予定日 平成30年7月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年8月期第3四半期の連結業績(平成29年9月1日～平成30年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年8月期第3四半期	11,715	5.4	781	7.5	748	6.3	507	35.5
29年8月期第3四半期	11,112	2.1	726	2.6	703	6.7	374	14.2

(注) 包括利益 30年8月期第3四半期 504百万円 (33.4%) 29年8月期第3四半期 378百万円 (6.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年8月期第3四半期	41.73	
29年8月期第3四半期	30.95	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年8月期第3四半期	18,381	9,250	50.3
29年8月期	16,761	7,663	45.7

(参考) 自己資本 30年8月期第3四半期 9,250百万円 29年8月期 7,663百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年8月期		5.00		5.00	10.00
30年8月期		10.00			
30年8月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年8月期の連結業績予想(平成29年9月1日～平成30年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,500	2.4	1,170	9.4	1,120	7.7	660	41.7	47.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年8月期3Q	13,889,720 株	29年8月期	12,189,720 株
期末自己株式数	30年8月期3Q	80,969 株	29年8月期	80,969 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年8月期3Q	12,171,022 株	29年8月期3Q	12,108,787 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信の添付資料3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期(平成29年9月1日～平成30年5月31日)におけるわが国の経済は、各国の政治動向や金融資本市場の変動など懸念要因はあるものの、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費に持ち直しの動きが見られるなど、緩やかな回復基調が続きました。

当社グループが属する健康食品市場は、機能性表示食品の増加などにより、緩やかな成長基調を維持しております。主力ユーザーである中高年齢層に加え、不足しがちな栄養素を補うことや引き締まった身体づくりを目的として若年層への広がりも見られました。

このような状況の下当社グループでは、ダイエット訴求の商材のほか、スポーツニュートリション市場向け商材が伸長したOEM部門が牽引し、当第3四半期の連結売上高は11,715百万円(前年同期比5.4%増)、営業利益は781百万円(前年同期比7.5%増)、経常利益は748百万円(前年同期比6.3%増)となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に計上した特別損失が無くなった影響等により、507百万円(前年同期比35.5%増)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①ヘルスケア事業

・OEM部門

当社グループの基幹事業である当部門は、ダイエット訴求の商材として乳酸菌や酵母関連商品が好調に推移したほか、スポーツニュートリション市場の活性化に比例しプロテインやアミノ酸関連の商品が伸長いたしました。その結果、当部門の売上高は前年同期比で二桁増となりました。

・海外部門

アジア地域を主な取引先とする当部門は、シンガポールのOEM顧客における美容商材の受注が伸長いたしました。また、ベトナムのOEM顧客においても美容商材が順調に推移いたしました。その結果、当部門の売上高は前年同期を上回りました。

更なる販路拡大に向け、今春より中国人2名を営業職として増員しております。

・通信販売部門

新規顧客の獲得や知名度の向上を目的に、全国紙へ継続的に広告を出稿しております。定番人気商材である「爽快柑シリーズ」は、昨年11月より順次リニューアルを行い、広告宣伝を強化したことで好調な売れ行きとなりました。しかしながら、ネット広告市場の変化が影響しネット事業の成長が鈍化したことにより、当部門の売上高を伸ばすことは出来ませんでした。

・卸販売部門

主要販路であるドラッグストアや乳幼児用品を販売する大型チェーン店から「miteteシリーズ」の『葉酸サプリ』『マタニティクリーム』の受注が好調に推移したほか、『ダイエットサプリ』も伸長いたしました。しかしながら、昨年春の特需商品が縮小したことにより、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

・店舗販売部門

百貨店の催事へ積極的に出展したほか、前期に引き続き自社ブランド品の販売比率引き上げに努めました。また、近年注目を集めている筋肉増強やロコモティブシンドローム対策の流れを受け、本年4月に『RICH アミノ3000』を新発売し顧客対応力の増強を図りました。しかしながら、店舗数の減少による減収が影響し、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高10,842百万円(前年同期比5.6%増)、営業利益1,232百万円(前年同期比9.0%増)(全社費用調整前)となりました。

②医薬品事業

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品事業は、新たな取扱製品を投入したことに加え、平成29年2月に承継したジェネリック医療用医薬品『ピムロ顆粒』（センナ下剤）については、既存工場を改築すると共に新たな機械設備を増設し、同年11月の承認取得後販売を開始いたしました。

また、一般用医薬品事業については、今期中の上市に向け後発薬の商品開発に取り組みました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高が873百万円（前期同期比3.3%増）となったものの、ジェネリック医療用医薬品『ピムロ顆粒』の上市に係る費用が嵩んだことなどにより、営業損失46百万円（前年同期は24百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,430百万円増加し、9,739百万円となりました。この増加要因は主として、公募増資により現金及び預金が1,193百万円増加したことに加え、原材料及び貯蔵品が97百万円、受取手形及び売掛金が81百万円、仕掛品が61百万円増加したことによるものであります。

②固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ189百万円増加し、8,642百万円となりました。この増加要因は主として、減価償却などにより有形固定資産のその他（純額）が103百万円減少した反面、日本語学校の建設などにより建物及び構築物（純額）が279百万円増加したことによるものであります。

③流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ734百万円減少し、7,014百万円となりました。この減少要因は主として、支払手形及び買掛金が138百万円、賞与引当金が80百万円増加した反面、返済期限が到来した1年以内返済予定の長期借入金の借り換えなどにより、短期借入金が915百万円減少したことによるものであります。

④固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ768百万円増加し、2,117百万円となりました。この増加要因は主として、返済期限が到来した1年以内返済予定の長期借入金の借り換えにより、長期借入金が797百万円増加したことによるものであります。

⑤純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,589百万円増加し、9,250百万円となりました。この増加要因は主として、公募増資により資本金及び資本剰余金がそれぞれ631百万円増加したことに加え、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が326百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年10月10日の「平成29年8月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,391,777	4,584,900
受取手形及び売掛金	2,054,147	2,135,573
商品及び製品	989,951	1,040,270
仕掛品	772,267	833,572
原材料及び貯蔵品	795,000	892,362
その他	317,175	266,864
貸倒引当金	△11,365	△14,398
流動資産合計	8,308,954	9,739,145
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,702,423	2,981,761
土地	4,109,859	4,109,859
その他(純額)	1,153,424	1,049,432
有形固定資産合計	7,965,706	8,141,053
無形固定資産		
のれん	3,061	2,295
その他	100,006	99,646
無形固定資産合計	103,067	101,941
投資その他の資産		
その他	446,571	462,399
貸倒引当金	△62,556	△62,623
投資その他の資産合計	384,015	399,775
固定資産合計	8,452,789	8,642,770
資産合計	16,761,744	18,381,916
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,884,206	2,022,559
短期借入金	4,481,958	3,566,838
未払法人税等	138,220	133,413
賞与引当金	136,500	217,400
ポイント引当金	14,803	19,431
その他	1,093,268	1,054,416
流動負債合計	7,748,956	7,014,058
固定負債		
社債	60,000	—
長期借入金	445,022	1,243,018
役員退職慰労引当金	171,013	161,279
退職給付に係る負債	269,383	294,734
負ののれん	2,253	1,830
その他	401,375	416,711
固定負債合計	1,349,047	2,117,573
負債合計	9,098,003	9,131,631

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,405,498	2,037,099
資本剰余金	1,469,539	2,101,140
利益剰余金	4,856,824	5,183,053
自己株式	△59,284	△59,284
株主資本合計	7,672,578	9,262,008
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△8,837	△11,724
その他の包括利益累計額合計	△8,837	△11,724
純資産合計	7,663,740	9,250,284
負債純資産合計	16,761,744	18,381,916

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年5月31日)
売上高	11,112,798	11,715,796
売上原価	7,713,874	8,267,672
売上総利益	3,398,924	3,448,124
販売費及び一般管理費	2,672,161	2,666,611
営業利益	726,762	781,512
営業外収益		
受取利息	49	45
受取配当金	1,506	3,227
投資有価証券売却益	—	9,259
受取賃貸料	13,955	15,583
負ののれん償却額	422	422
損害賠償金収入	4,377	—
助成金収入	7,626	—
その他	6,327	7,493
営業外収益合計	34,264	36,033
営業外費用		
支払利息	49,538	45,717
新株発行費	—	13,914
その他	7,568	9,800
営業外費用合計	57,107	69,432
経常利益	703,920	748,113
特別利益		
固定資産売却益	—	18
投資有価証券売却益	20,185	—
補助金収入	24,000	2,180
債務免除益	12,675	—
特別利益合計	56,860	2,198
特別損失		
固定資産売却損	—	652
固定資産除却損	33,499	1,860
役員退職慰労金	224,475	—
特別損失合計	257,974	2,512
税金等調整前四半期純利益	502,806	747,799
法人税、住民税及び事業税	166,234	211,416
法人税等調整額	△38,167	28,522
法人税等合計	128,066	239,939
四半期純利益	374,739	507,860
親会社株主に帰属する四半期純利益	374,739	507,860

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年5月31日)
四半期純利益	374,739	507,860
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,673	△2,886
その他の包括利益合計	3,673	△2,886
四半期包括利益	378,413	504,973
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	378,413	504,973
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成30年5月7日開催の取締役会決議に基づき、平成30年5月22日を払込期日とする一般募集による新株発行を実施しました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本金及び資本準備金がそれぞれ631,601千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,037,099千円、資本剰余金が2,101,140千円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年9月1日至平成29年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	10,267,353	845,445	11,112,798
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	10,267,353	845,445	11,112,798
セグメント利益又は損失(△)	1,130,475	△24,889	1,105,585

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,105,585
全社費用(注)	△378,822
四半期連結損益計算書の営業利益	726,762

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成29年9月1日至平成30年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	10,842,651	873,145	11,715,796
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	10,842,651	873,145	11,715,796
セグメント利益又は損失(△)	1,232,245	△46,353	1,185,891

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,185,891
全社費用(注)	△404,379
四半期連結損益計算書の営業利益	781,512

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

当社は、平成30年5月7日開催の取締役会において、野村證券株式会社が行ったオーバーアロットメントによる当社株式の売出しに関連して、同社を割当先とする第三者割当増資による新株式の発行を決議し、平成30年6月13日に払込を受けております。

(1) 発行する株式の種類及び数	普通株式 255,000株
(2) 払込金額	1株につき 743.06円
(3) 払込金額の総額	189,480千円
(4) 増加する資本金及び資本準備金の額	増加する資本金の額 94,740千円 増加する資本準備金の額 94,740千円
(5) 払込期日	平成30年6月13日
(6) 資金使途	本第三者割当増資と同日付の取締役会において決議された平成30年5月22日を払込期日とする公募増資の払込金額(1,263,202千円)と合わせ、当社工場の健康食品製造機械・品質保証機器等や管理システム更新等の設備投資資金のほか、当社連結子会社である(株)イーエフシー・(株)日本予防医学研究所・本草製薬(株)への投融資資金や、当社の借入金の返済資金にそれぞれ充当する予定であります。 なお、当社からの投融資資金の内、(株)イーエフシー分は、通販システム更新資金等と借入金の返済資金に、(株)日本予防医学研究所分は、原料開発棟の設備投資資金等に、本草製薬(株)分は、生産管理システムの更新資金等と借入金の返済資金にそれぞれ充当する予定であります。